選択的セロトニン再吸収抑止物質(SSRI)のLC/MS ならびにLC/MS/MSによる迅速測定

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2013-08-27
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 服部, 秀樹, 伊藤, 健次郎, 岩井, 雅枝, 益田, 健史,
	水谷, 洋子, 妹尾, 洋, 有信, 哲哉, 熊澤, 武志, 石井, 晃, 鈴木,
	修
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/1756

P-7 選択的セロトニン再吸収抑止物質(SSRI)の LC/MS ならびに LC/MS/MS による迅速測定

愛知医大・法医 ○服部秀樹、伊藤健次郎、岩井雅枝、益田健史、水谷洋子、

妹尾 洋

愛知医大・化学 有信哲哉 昭和大・法医 熊沢武志 藤田保大・法医 石井 晃 浜松医大・法医 鈴木 修

Rapid and simple determination of selective serotonin reuptake inhibitor (SSRI) in human serum or plasma by LC/MS and LC/MS/MS

Hideki Hattori¹, Kenjiro Ito¹, Masae Iwai¹, Tetsuya Arinobu², Kenji Masuda¹, Yoko Mizutani¹, Takeshi Kumazawa³, Akira Ishii⁴, Osamu Suzuki⁵ and Hiroshi Seno¹

¹Department of Legal Medicine, Aichi Medical University School of Medicine

²Department of Chemistry, Aichi Medical University School of Medicine

³Department of Legal Medicine, Showa University School of Medicine

⁴Department of Legal Medicine, Fujita Health University School of Medicine

⁵Department of Legal Medicine, Hamamatsu University School of Medicine

[はじめに]

うつ病の治療薬としては、三環系・四環系抗うつ薬が主に用いられていた。最近、これら薬剤の持つ副作用を取り除き、抗うつ作用を持つセロトニン再取り込み抑制物質(SSRI)が日本でも認可され、次第に広く使用されるようになっている。LC/MS および LC/MS/MS を用いた、血清及び血漿中 SSRI の迅速かつ簡便で実用的な分析について検討した。

[実験方法]

SSRI の検出にはイオントラップ型 MS である LCQ (Thermo electron 製)、LC は HP・1100 Series (Agilent 製)を用いた。

使用した薬物(Paroxetine、Sertraline、Fluvoxamine および Dextromethorphan(IS))の標準品は試薬メーカーから購入した。試薬類は HPLC 用または特級品を使用した。血清または血漿試料をギ酸にて等倍希釈したものを LC に注入した。

IS はギ酸に 10 ng/ml の濃度で溶解し、この液にて血清または血漿を等倍希釈した。

カラムは Shim-pack MAYI-ODS、 $10 \times 4.6 \text{ mm i.d.}$ (島津製)、移動相は A 液として 7.5 mM 酢酸アンモニウム、B 液としてアセトニトリル(0.05% ギ酸含有)を使用し、A 液(5 分間保持)から B 液へ 15 分のグラジエントをかけた。流速は 0.2 ml/min とした。

MS の条件は Positive ESI モード、capillary 温度は 270°C、spray 電圧は 5.8kV、full scan モードにて測定。

MS/MS 条件は以下の通り。Collision energy は 40%, isolation width は m/z 2.0 、max ion time は 200ms。

[結果と考察]

各 SSRI の同定・定量のため、それぞれの MS スペクトルならびに MS/MS スペクトルを 測定した。 MS スペクトルは、paroxetine、fluvoxamine では[M+1]+が、sertraline においては[M-31]+がベースピークとして出現した。

また、各 SSRI の[M+1]+由来の MS/MS スペクトルを測定し、同定および定量に用いた。 血清または血漿中からの検出は、血漿は時間の経過とともに全体が凝固してゆく傾向が認 められるので、試料の調整は血清または血漿ともに等量のギ酸にて希釈し、これを LC に注 入した。

検出限界は血清および血漿でそれぞれ 5 ng/ml、10 ng/ml 以下であり、定量性は血清で 5 ng/ml から 80 ng/ml の範囲で良好な直線性を認めた。

また、未知血清または血漿中の SSRI の同定は、MS および dependent MS/MS を行って 100 ng/ml 以上で可能であった。

血清または血漿試料をギ酸にて等量希釈したものを、そのまま LC/MS に導入し、カラムにより除蛋白および分離まで行うことが可能であり、また、イオントラップ型 MS の特徴を生かし、MS/MS での定量を full scan モードで行うことにより、定量と同時に同定も可能となる。

以上のように、迅速かつ簡便で実用的な分析が可能であった。

[Summary]

A sensitive, simple and rapid method using LC/MS and LC/MS/MS assay for selective serotonin reuptake inhibitors (SSRIs), in human serum or plasma was investigated in this study. In this method, three SSRIs, paroxetine, sertraline and fluvoxamine were measured; dextromethorphan was used as internal standard (IS).

Serum or plasma samples with or without the compounds and IS, which were mixed with formic acid, were directly subjected to LC/MS.

In MS spectra, [M+1] ions for paroxetine and fluvoxamine, [M-31] ion for sertraline were observed as base peaks. For MS/MS analyses, [M+1] ions of the compounds were used as precursor ions for these identification and quantitation. The three compounds could be identified above 100 ng/ml serum, using MS and dependent MS/MS.

For three compounds, the calibration curves were linear in the range 5 - 80 ng/ml in the serum and the detection limits were under 5 ng/ml serum and 10 ng/ml plasma, respectively.

These results indicate that this presented method can be useful to determine the SSRI in human serum or plasma.